

藤島小「カリキュラム・デザイン」の基盤【本校の教育目標と、資質・能力の三つの柱との関係】

2026.4.1

	学校教育活動全体において 教科横断的な視点に立って育成する資質・能力				本校の教育目標 「自分の思いを語り、共に高まり合う子どもの育成」			
	＜学習の基盤となる資質・能力＞			本校で特に育成 したい資質能力	知	徳	体	
めざす 子ども像 資質・能力 三つの柱	言語能力	情報活用能力	問題発見・ 解決能力	対話する力	自分から、 ねばり強く 学ぶ子ども	相手の気持ち を考える 思いやりの ある子ども	心と体を鍛え、 しなやかさを持つ子ども ＜健康体力＞	＜意志＞
知識及び 技能	言語の働きや 役割を理解する 言葉の使分け ができる	情報を活用する ために必要な 知識と技能を 身につける	各教科で身に つけた問題発見・ 解決の技能を 生かす	言語能力の知識・ 技能を生かして、話し 合う（聞く・ かく・話す）	基礎的な知識・ 技能を身に つけ活用する ＜構造化する＞	道徳的諸価値 を理解する	健康・体力・ 安全について 理解し実践する	目標実現のため の方法を知る
思考力、 判断力、 表現力	言葉にする力 伝え合う力 考えを形成する 力を身につける	情報を結びつけ 意味を見出す 情報を効果的に 活用する	各教科で身に つけた力を統合 的に活用する	★教科の見方・ 考え方を生かして、論 理的に思考し 表現し合う	対話を通して 自分の学びを 深める ＜活用する＞	物事を多面的・ 多角的にとら えて判断し行動 する	健康・体力の 自己の課題を 見つけ、解決 する	目標実現のため に主体的に 考え判断する
学びに向かう力、 人間性	見方・考え方を 広げ深める 他者を尊重する	情報社会に主 体的に参画し 社会発展に寄 与する	問題解決の過 程で粘り強く 取り組む 解決方法を調 整する	対話を通して見方・ 考えを広げ深める 他者を尊重 する	自己の学びに 粘り強く調整 しながら取り組 む ＜汎用的能力に＞	自己を見つめ 生き方につい ての考えを深 める 異なる考えを 受容する	健康・体力を 向上し、明る く前向きに生 活する	目標実現のため に主体的に 粘り強く行動 する

★「対話する力」は、生活科・総合的な学習の時間等の領域・学校行事・日常活動等と、各教科で培う資質・能力の活用関係を明確にし、カリキュラム・マネジメントにより教科横断的に育成する。